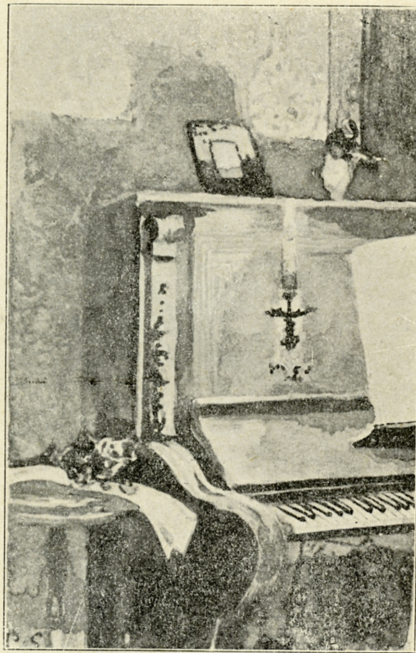


## スケッチの説明

T、Q、生

圖は前橋の郊外より赤城山を見た處のスケッチである。時は十月十七日の午後二時頃で、太陽はよく照してゐた。中景は常磐木の森、前は一面の稲田で三脚を据へたのは街道の傍である。

此スケッチは赤城行の紀念にといふ考であつたが、雲が面白かつたから地平線を低くして見た。初めにざつと輪廓をとり、さて向つて右の方山の上にある白い雲が、淡く赤黄色に見え、全體に稍暖かな調子があつたから、ウエルミリオとエロイオクルを混ぜて薄く全紙を塗つた。次に雲の陰を描いた「パレットの上でいろ／＼の繪具が混つたが、大體はライトレッドにコバルトである。夫から白く輝いた處だけを殘して空を着色した。上部はコバルトを重とし、山に近くは美しい色が見えたから。ブルシアンプルーを使ひ、下の方には少しのレモンエローを加へた。山はライトレッドにホワイトを混ぜた



子代千條三 等一回七十第

ものを一面に塗て、生乾きのうちに同じくホワイトにコバルトインディゴ等を適宜に交ぜて陰の暗い處を作つた。此時山全體は不透明であつた。麓から下は全部カドミウム、オレンヂの稍濃いのを塗て置て、中景の森はインディゴにエロイオクル

を交へて日光を受けり部分の色を出し、それで陰の部分も描いて、後に暗い陰の空氣の色をよく見える處へオルトラマリオンを其儘つけた。稻は前に塗たカドミウムオレンヂの上へ遠くはレモンエロー、近くはエロイオクル、極めて明るい處はネブルスエローを以て描いた。夫から前に森を描た残りの繪具で、田の境界の暗く見ゆる部分に二三の線を施して、初めより四十分間に此スケッチを終つたのである。

紙はワツトマンの九ツ切。筆は九號の羽根軸をウオツシに用ひ他は多くニュートン製の油繪筆一號と五號とを交へも用ゐた。挿入の圖は原畫通りにはゆかぬが、趣は分ると思ふ。空はもつと透明な藍色で、森の光部も穏かな緑であり、輪廓もあのやうに硬くはない。カドミウムオレンヂは、他の黄で作つた赤味の少ない橙黄色で代用が出来る。